

令和4年度事務事業評価表

事務事業名	ハンディキャブ運行			担当課	ボランティア・地域貢献活動センター	事業種別	補助
				担当係	推進係		
開始年度	昭和61年度	計画体系	2 区民同士のたすけあい活動を広げます ⇒ (1)地域支えあい活動の充実				
根拠法令等	ハンディキャブ運行事業実施要綱						
事業区分	事業	社会福祉	拠点	在宅福祉事業	サービス	移送サービス事業	
事務事業目的	運転ボランティアの協力のもとリフト付きワゴン車を運行し、歩行困難な高齢者や障がいのある方の外出及び社会参加を支援する。						
実施内容	【概要】 1 対象者 葛飾区に住所を有する車いす利用者(利用する上で登録(社協会員登録)が必要) 2 内 容 (1) 運転ボランティアによるハンディキャブの運行 (2) 年末年始を除く毎日 午前9時から午後5時まで (3) ボランティア・地域貢献活動センターを起点におおむね半径50キロ以内 3 利用者の費用負担 (1) 利用料金 走行1時間以内1,000円 1時間を超えた場合30分毎に500円 (2) 待ち時間 30分毎に250円 4 運転ボランティアへの報償費 (1) 費用弁償 走行1時間以内700円 1時間を超えた場合30分毎に350円 (2) 待ち時間 30分毎に250円 5 運行車両保有台数(4台:民間団体等からの寄付、助成、社協自主財源) (1) 日産キャラバン(2015.3～) (2) トヨタハイエース(2018.7～) (3) ダイハツハイゼット(2021.11～) (4) ダイハツハイゼット(2021.3～) 6 運転手の資格要件 ①第二種運転免許保持者、または、②第一種運転免許保持者で、国土交通省認定講習機関の「認定講習」を修了した者 7 その他 福祉有償運送運営協議会の協議を経て、関東運輸局に許可申請を行う。(次回更新:令和4年度)						

指標		指標の根拠	単位	区分	H31	R2	R3
成果	利用件数		件	目標	880	880	880
				実績	669	325	386
成果	運転ボランティア登録者数		人	目標	20	20	20
				実績	11	11	10
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
				実績	—	—	—

備考	
----	--

コスト内訳(千円)			H31	R2	R3
収入	特定 財源	区補助金	1,238,960	1,216,420	1,044,795
		利用者負担	1,202,750	560,750	658,500
		財団補助金	0	0	0
	一般財源 (a)		1,553,400	3,453,400	1,519,000
支出	事業費 (b)		2,441,710	3,677,170	1,703,295
	職員人件費 (c)		1,553,400	1,553,400	1,519,000
		業務量(人)	0.20	0.20	0.20
	間接費 (d)		0	0	0
	調整額 (e)		0	0	0
		退職給与引当	0	0	0
			0	0	0
			0	0	0
		(控)コスト対象外	0	0	0
トータルコスト (f=b+c+d+e)			3,995,110	5,230,570	3,222,295

単位当たりコスト(円)		H31	R2	R3
単位の定義		利用者件数(件)		
実績数値 (g)		669	325	386
単位あたり社協単コスト (a/g)		2,322	10,626	3,935
単位あたりコスト (f/g)		5,972	16,094	8,348

実施状況に対する評価	公共交通機関を使つての移動が困難な場合のサービスとして一般に認識されるようになってきている。 令和2年度以降はコロナ禍による利用減が見られるが、本事業の実施により、歩行困難な高齢者や障がい者の外出支援と社会参加の促進、また、運転ボランティアの生きがいや社会参加への意識向上が図られている。 しかし、新規の運転ボランティアが十分に確保できない状況が続く中、既存の運転ボランティアは高齢化してきており、安心して利用できるサービス(質)として十分な提供体制(量)を確保できるかが課題となっている。
今後の方向性【改善】	当面、事業のPRを続けるとともに、運転ボランティアの確保(増員)とレベルアップを図っていく。 しかし、東京都では、車いすごと乗車可能なユニバーサルデザインタクシーの普及が進んでおり、歩行困難な方や車イス利用者の移動手段が相当数確保できる状況になれば、事業規模の縮小(車両台数の減)や廃止に向けた検討を行っていく必要がある。